

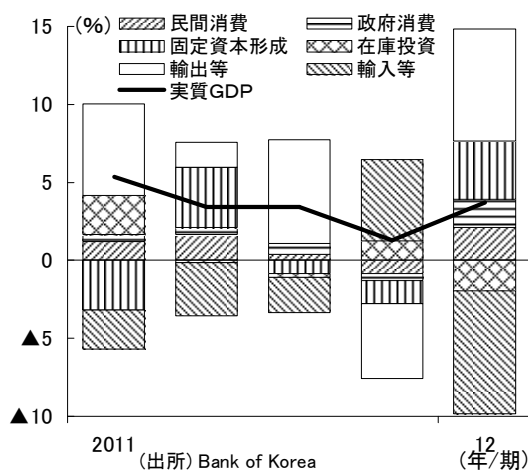


成長加速に転じた韓国経済

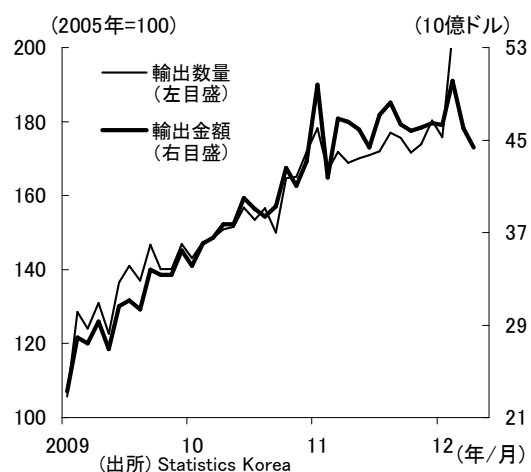
～ 持続力は不透明 ～

- (1) 昨年に入り、韓国経済は成長ペースが期を追って鈍化（図表1）。季調済年率ベースでみると、実質経済成長率は昨年1～3月期の5.3%をピークに10～12月期は1.3%へ。しかし本年1～3月期には3.7%と一転して成長加速。主因はまず輸出。昨年10～12月期と寄与度を対比すると、輸出は▲4.8%から+7.2%へ。次いで設備投資。輸出同様▲1.5%から+3.7%とマイナスからプラスに。民間消費も▲0.8%から+2.1%へ。
- (2) もっとも持続力は不透明。まず1～3月期、最大の貢献をした輸出に翳りの兆し（図表2）。近年、輸出価格に大きな変動がないなか、輸出金額と輸出数量は総じて同様の推移。輸出数量は本年2月まで公表済みに対し、輸出金額は4月まで公表済み。輸出金額は2月、大幅に増加して既往最大を更新した後、3月は前月比▲8.2%、4月同▲3.5%と2ヵ月連続マイナス。4月は昨年10～12月期を下回る水準に。少なくとも2月の大幅増には閏年に伴う嵩上げ影響が作用。1～3月期を実勢とは看做せず。
- (3) 一方、鉱工業生産をみると、本年1～2月に増加した後、3月は大幅に減少し、昨年末と同水準に（図表3）。財別にみると、生産財は月毎の変動はあるものの総じて趨勢的な増勢を維持しているのに対して、資本財は昨年半ば以降、消費財は昨年初来の軟調な動きが継続。
- (4) さらに、民間消費を支える雇用情勢で情勢変化（図表4）。近年の経済成長で一貫して増加してきた正規雇用が昨年末から頭打ちに。代わって長年、正規雇用の受け皿となってきた自営業者など非賃金労働者が10年末をボトムに増加傾向へ。加えて非正規雇用も昨年末を底に増勢転換の兆し。正規雇用から非正規雇用や非賃金労働者への転換は賃金水準が異なるだけに所得制約の増大に作用。本年の同国経済は実質3%前後の成長にとどまる公算大。

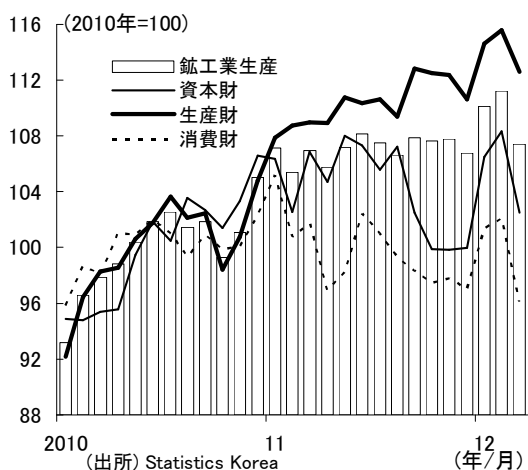
（図表1）韓国の実質経済成長率（季調済年率）



（図表2）輸出数量と輸出金額（季調済）



（図表3）財別鉱工業生産（季調済）



（図表4）従業上の地位別就業者数（季調済）

